

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201314		
法人名	有限会社 ウエルマツナガ		
事業所名	ウエル城北		
所在地	静岡市葵区城北65		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町村受理日	平成23年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22742

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 システムデザイン研究所
所在地	静岡市駿河区馬淵2-14-36 402
訪問調査日	平成23年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手探りの状態で一からグループホームを立ち上げてきた管理者が退職して新しい管理者を迎え、「あなたらしく笑顔いっぱい」の基本理念は継承しつつ、ご利用者それぞれの残存能力を活かして、一人一人の生活パターンに合わせた、個別ケアをしていきます。決してオーバークアにならず、出来ることは工夫を施して継続していただきます。出来ないことはその方の尊厳を傷つけないようさりげなく寄り添う介護を目指していきます。そのため常に介護スタッフは介護、予備的な医療知識の習得、御利用者へのコミュニケーションツールとしての専門知識、一般常識 地方の歴史、など広く見識を有した職員を配置しております。基本は職員もご利用者様も笑顔一杯溢れるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣に郵便局、筋向いに幼稚園、また近隣には店舗が立ち並ぶという賑わいのある場所に事業所はある。前任の管理者が看護師だったこともあり、管理者交替時に家族へ理解を求めるとともに訪問看護と医療提携を昨年5月から開始している。また、家族会の定期開催や家族アンケートなど、家族との関係づくりにも力を入れ始めている。昨年の課題である看取り教育については、現在外部への参加を繰り返し、今後は所内研修に落とし込む予定でいる。なお、看取りに関わる指針についても、家族全員の意向の確認がとれる書面に変更している。以上のように、管理者の交替により改善向上が進んでいることが十分確認でき、今後に大いに期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”あなたらしく笑顔いっぱい”をモットー（理念）として入居者様の笑顔をいっぱい引き出せるように、また職員も共に笑顔で過ごせるように心がけて支援している	働きがい（従業員満足）を持つことを支援することでひいては利用者満足に繋がると管理者は考えているため、個々の視野拡大について取組中である。実際は、職員の笑顔や積極性が見られ、管理者の目標の高さが受けとめられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内にモットーを掲示し、カンファレンスやスタッフ会議等でも常時話題にあげている。いつもその人らしい生活とは、どのようなことか考えながら支援の方法を模索している。	自治会に加入しており、回覧板も廻ってきている。また、事業所の防災訓練には自治会長や郵便局長にも参加してもらっており、地域との関係は良好である。また、近隣にある身障者の施設や幼稚園と交流を重ね、その活動は事業所内に掲示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関前にモットー（入居者様が書き込んだ）が掲示されており、面会にこられた家族や外来者にも目に触れるようになっている。月1回発行される「ホーム便り」にも毎回掲載し家族に周知されている。 社会福祉防災訓練では地域施設（郵便局）や町内会を通じて防災訓練を援助いただき認知症の方々の理解度を高める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動報告、外部評価の評価結果の公表及び改善等の取り組み方法などを話し合っている。	運営推進会議の案内は直接出向き手渡ししている。事業所の内容を知ってもらうとともに、地域の高齢者の取り組みについての貴重な情報を得ることができ、役立つ内容となっていることが記録から確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域包括支援センターや、関係部門への連携を密にしてケアサービスの取り組みを密に伝えながら良好な関係を維持している。	事業所側もわからないことは何でも相談するようにしており、また市の担当者も運営推進会議への参加がある。介護相談員の訪問もあり、外部の意見がもらえることに事業所は感謝している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修を受けて、研修内容を全職員に落とし込みをして身体拘束の認識を高める努力を行っている。	やむを得ない場合取り組む際の書面を備えており、身体拘束ゼロ宣言をしている。また、外部研修にも参加した者が口伝研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けて、研修内容を全職員に落とし込みをして虐待防止の認識をたけめる努力を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係職員は日常生活自立支援事業や権利擁護に関する研修会に多く参加できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	関係者に対して家族会において詳細説明を行って、充分にご理解を得て、現行の介護保険制度に即した重要事項説明書に改定を行った。ただちに全てのご家族に新たに締結した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が率直に意見、要望を披露できる環境作りに専念して、ホーム運営に反映させている。苦情受付の窓口（ホーム内、外部）を知らせるポスターを目に付くところに掲示している。受付カウンターに苦情・要望ポストを設置している。	家族会を年2回行うよう計画している。このように家族とのコミュニケーションに力を入れ始めたところであり、面会の際の受付簿に意見を書くことができるスペースを設ける予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月に1回、全ての職員との個別面談を行って、ホーム運営に関しての意見や提案若しくは相談事を聴取する場を設けていく。 隔月で全体会議を招集して全職員が意見・討論できる場を設けている。	管理者が交替してからはボトムアップの仕組みづくりに努め、定期及び随時の個人面談に取り組んでいる。歓送迎会など職場を離れて話をする機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握して、適切な要員構成になるように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の授業料及び検定料、受験の交通費を助成している。単体の施設の為、内部研修は困難だが、積極的に外部研修に出席している。研修受講者はスタッフ会議の中で全スタッフに落としこみをして共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム協議会に参加して情報交換・意見交換・勉強会を図っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の家庭訪問時から入居者や家族との関係作りを心がけている。日頃からコミュニケーションを密にし話し易い関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に相手の話しに傾聴して、真摯になって相手の気持ちになってより良い関係づくりを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常日頃から相談機関や各種サービス事業者との交流を図って、ご利用者様に対しての介護のベストチョイスが提案できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、たたみ作業、茶碗拭き、買い物、調理の手伝い、ごみだし、テーブル拭きなどできることはやってもらったり、一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の絆を職員一同良く理解して、ご利用者様に寄り添う形でご家族様との関係をサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員はご利用者様の古くからのご友人との関係を良く理解して良好なる関係が継続できるように支援している。	利用者の大半が地元出身者であるため、面会は頻繁にある。面会が少ない家族には、毎月事業所のたよりと担当職員の一筆箋を送り、様子を把握できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ての職員はご利用者様同士の関係構築に手助けしたり、時には間に入って橋渡しをして良好なる関係作りに寄与している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合でも時々面会を行っている。亡くなられた場合でも共同生活を営んだ大事なご利用者様としてご会葬している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの気持ちを十分に把握して、ご本人の言葉を聞き入れるよう努力している。その時々状況や気分なども大事にしております。	アセスメントは必要に応じて書き換えている。感じ取る力のある職員も少なくなく、安全・安心・安楽であることのへのバランスを図ることに努めている。また、会話の中から利用者の思いや意向を引き出している場面も確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの生活歴の聴取や、センター方式によるアセスメントを実施して、全職員が情報を共有化している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態の観察のためにバイタルチェックを行っている。その時々身体状況に合わせた日々を過ごしてもらえるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員全員で意見を出し合っており、介護計画を作成している。本人やご家族の意見・要望を反映できるように努めている。	主担当と副担当の2名の担当制をとっている。職員が日々記録したケアプランチェック表をモニタリングのベースとし、計画作成担当がプラン化している。	利用者に寄り添う介護を目指しているとのことであるので、職員がアセスメントやプランを作る試みを期待する。また、各ユニット毎に計画作成担当を置くことも併せて検討願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、バイタルチェック表、申し送り事項、カンファレンスで情報を共有化しながら気がついたことを話し合っており、介護計画のプラン作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接地は専門医療機関が多く、軽微な疾患は職員・管理者等が個別で受診対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している、障害者施設「つばさ」で開催される行事に積極的参加して、地域交流、及び利用者様の豊かな活動の場を支援している。又、「とこは幼稚園」様とは園児と入居者様の交流会を定期的は図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族の希望を優先している、必要に応じてかかりつけ医とも連携し、ご利用者の容態を把握することに努めている。	家族の希望を優先しているが、実際は大半の利用者が事業所のかかりつけ医に替わっている。「介護記録」に記載するとともに「受診対応記録」にも残しており、有事に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションとの契約を締結して、全ての入居者様の健康管理、補助的医療措置を行っている。又緊急時の相談業務、訪問看護にも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合は医療関係者やご家族と連絡を密にして今後の容態の変化を逐一把握して早期に再入居できるようにサポートしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期についてなどその都度、ご家族の意向や今後の方向性などを意思を医師を交えて話し合っている。	第一に優先されるのは家族の意向であるが、医療が必要な看取りは実質難しい。家族の考えや希望を大切に、都度話し合う機会を持つよう努めている。昨年の看取りの実績は3件ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変、事故発生時に備えて、事故対応フローチャートや緊急時連絡網を作成して日頃から即応体制が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施して、ご利用者様を含めて避難誘導訓練を通して日頃から防災意識の向上に努めている。社会福祉防災訓練では地域施設（郵便局）や町内会を通じて防災訓練の協力いただいた。	郵便局長や町内会長などに訓練に参加してもらえよう事業所からお願いし、参加してもらっている。ただし、事業所が地域の防災訓練へ参加するというのは未だ実績がない。	地域の皆さんの参加を定期的なものにしていくとともに、職員や利用者も地域の防災訓練に参加し、連携を深めることを期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレなどに介助に入る場合は必ずノックをして入室、排泄介助の場合も他の方の視野に入らないように工夫を凝らしている。	「ちゃん」呼びなどについては「いけない」と単一的にとらえるのではなく、利用者が心地よいと感じるのであれば、また家族が嫌悪感を感じないのであればいいと判断するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、嗜好品、行事決定についても常にご利用者に希望・要望等を伺って、最大限生かせるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活サイクルはある程度はあるが、個々の身体状況や精神状態でその人に適した生活リズムに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に化粧道具一式を持ち込んで、起床後、しっかりと化粧する時間を持っていたき、納得いくおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に卓上プレートを用意して、焼きそば、お好み焼き、カルメ焼きなど郷愁を覚える食材で会話を楽しみながら利用者と職員が一緒になって行っている。	主食、副食、汁ものに必ず季節のフルーツを入れるようにしている。行事食にも取り組むほか、天気の良い日はおにぎりを作り、外で食事をレジャー気分を味わうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事摂取量、水分量を記録し、定期的に体重測定を行って、栄養状態・栄養バランスを図っている。メニュー係りが一ヶ月の献立を作成して偏らない食事メニューに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の能力に応じて援助している。半介助の人、全介助の人、すべて自立している人などいるが最後には職員が確認を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は極力、リハパンを使用して、定期的に声かけしトイレ誘導を行って、自然排便・排尿を促している。陰部の清潔維持、褥瘡防止の観点からも極力便通の薬を控えるようにしている。	まずは利用者の状態が優先されるが、食事やマッサージなどで対応し、可能な限り便通の薬は使わないようにしている。夜間リハパンでも日中は布パン（パッドあり）でトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便を出易くする薬を使用したり、坐薬を使用している人が多い。十分な水分摂取、食事を確保し、適度な運動（散歩・廊下を歩く）を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特段、時間は指定しておらず、ご利用者の希望を尊重してゆったりとした時間帯に入浴していただいている。	原則週2回入浴となっているが、体調に不安がなく希望があれば毎日入浴することができる。日中は時間選択できるが、夜間入浴は職員の配置上難しい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全体的に生活リズムが2時間程度ずれている方がいるが、入居時から生活リズムを守っているため、その人の生活リズムとして確立されていて、職員も変えることなく支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が服薬管理できるように服薬リストを作成して周知徹底している。全ての薬には副作用があると認識して逐一副作用の情報を周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は塗り絵をしたり、唄の好きな方々は職員のリードに合わせて合唱したりと楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は主に職員と一緒に近所を散歩したり、公園に出掛けたりして、外出する機会を多く設けている。	日常的に散歩に取り組んでおり、富士山が見える散歩コースも持っている。車が3台あり、ドライブに頻繁に出掛けている。また、年2回定期的に遠足や地域観光を楽しむ機会もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自身で管理し使っている人もいる、嗜好品(タバコ)を職員が購入支援している。又他の入居者は友人と外出して好みのものを購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて対応している。家族や友人へ宛てて書いた手紙を隣接した郵便局まで一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったりして、季節感を持たせている。トイレなどは大きく表示して利用者様に解りやすくしている。廊下の一角には喫煙する利用者様の為に喫煙コーナーを設けている。廊下の壁面には前年度の行事の写真が展示されていてご利用者様やご家族様ご覧になっている	換気扇を24時間廻し、空気の入替えに努めている。また、エアコンのセンサー及び温度計、湿度計で適温を保っている。そのほかにも利用者の人間関係やADLを考慮し、テレビの前のソファの位置を替え、環境づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の壁面には長いソファを設置して日中はご利用様が横一列座ってゆっくり寛がれて、テレビを見たり、談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や椅子、仏壇などを運び入れたり、壁面には写真などはって、ご本人が穏やかに寛げる空間作りをされています。	エアコンと洗面台が備えつけられており、和室にしたい利用者は畳を入れている。写真や整理棚など好みのものを飾り、生活を楽しんでいることが覗える。また、各部屋に色とりどりの暖簾(90センチ以内)があり、自室が分かり易くなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は居室から入口までの動線が一直線になっていて、両サイドには手摺を設置してある。3箇所のトイレは全て車椅子対応で、右左麻痺でも対応できるように左右対称に便器が設置されている。		